

シンポジウム

心肺の内科

日 時：平成8年9月28日（土）3：00～4：50

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

司 会

細田 瑛一（循環器内科学教授）・滝沢 敬夫（名誉教授）

心不全と呼吸筋不全：機序と対策

1. 心不全

島本 健（循環器内科学助手）

2. 呼吸筋不全

吉野 克樹（第一内科学助教授）

急性組織損傷：発生機序とその抑制

3. 急性心筋梗塞

川名 正敏（循環器内科学講師）

4. 急性呼吸促進症候群（ARDS）

永井 厚志（第一内科学助教授）

イオンチャネルと病態

5. 刺激伝導系のイオンチャネルと病態

萩原 誠久（循環器内科学助手）

6. 気道病態とイオンチャネル

玉置 淳（第一内科学講師）

序 言

細田 瑛一（循環器内科学）

滝沢 敬夫（名誉教授）

第62回総会のシンポジウムは、金野公郎副会長の御企画で呼吸と循環の内科からそれぞれ3つのテーマを選んで構成された。心と肺はいずれも直接生命維持に必須で古くから不可欠の臓器として、臨床的にも病態生理の把握にまた治療の開発に両々相まって進歩してきた。右心から肺を通り、左心に戻る小循環は、心と肺だけで構成されており、肺気腫や肺線維症など肺の異常による右心負荷、肺性心や、心筋梗塞や僧帽弁疾患による心不全に伴う肺水腫などはこの関係をよく示す病態である。今回は心筋呼吸筋の不全とその対策、心肺の急性組織損傷、壊死による病態とその治療、そして心筋刺激伝導系と気道粘膜のイオンチャネルとその病態を取り上げ基礎と臨床の現状を循環系、呼吸系それぞれの立場から報告を行った。